

公助項目に対する提言一覧表

1. 行政（公助）に対する総合的な提言（重層的支援体制整備事業含む）

10項目

内訳：大野委員長1項目、本木副委員長1項目、府野委員1項目、渡邊委員3項目、齋藤委員4項目

通番	担当課	要覧該当ページ	事業番号	対象事業名	内容	提言・質問の別	委員名
1	市全体	—	—	—	<p>コロナ禍の影響を受けているものが多くみられます。中止もやむを得ないものも多数ありますが、継続的な取り組みを絶やさないためにも、コロナ禍でどのような手を打つかが課題としてあげられると思います。</p> <p>オンライン開催など取り得る手段を一層考慮していただければ、コロナ禍が収まった際でも直接会場に來られない方へのフォローアップにもつながるのではないのでしょうか？</p>	提言	大野委員長
2	市全体	2～3	—	令和4年度抜粋版 実施事業 評価の内訳	<p>コロナ禍の影響を受けた事業は67.5%に及んでいるにも拘わらず各章のA評価は70%代～80%に近いところとなっています。厳しい環境の中で懸命な努力をされた、各部門の関係者に心から敬意を表します。</p> <p>ただ、3年に渡る取り組みのプランクは、これまでの取り組みを新たな視点で見直すことのできる良い機会ともなるはずで。関係者の新たな視点からの総括を期待します。</p>	提言	本木副委員長
3	地域福祉課	—	—	重層的支援体制整備事業について	<p>地域の中で、制度の狭間ひきこもりなどの相談を受けることが少しずつ増えてきています。年齢にも幅があり、また対応が難しくさーくるに相談したりしています。</p> <p>これからどのように支援体制を整備していくか、これからだと思います。地域での仕組み作りや居場所作りも必要になってくるのではないかと考えています。</p>	提言	府野委員

通番	担当課	要覧該当ページ	事業番号	対象事業名	内容	提言・質問の別	委員名
4	地域福祉課	—	—	重層的支援体制整備事業について	<p>地域共生社会の実現の中でこの重層的支援体制整備事業が実現されるとすばらしい事業となると思います。</p> <p>「絵に書いた餅」にならないよう関係機関や市民、担当者が共通理解をし進めていただければと思います。</p> <p>周知方法も大切だと考えます。</p>	提言	渡邊委員
5	地域福祉課	—	—	重層的支援体制整備事業について	<p>「重層的支援体制」の取組みは大賛成です。しかし、民生委員の経験からすると、要支援者の家庭はどれも「複合的な課題を抱えてる家族」です。</p> <p>船橋市では、この活動の中核となる「連携担当職員」は「さーくる」が担うそうですが、扱う案件の内容が複雑で重く、要支援者の心を解きほぐすためにじっくり話し合う必要があり、支援活動1件当たりの工数が膨大になります。ですから「さーくる」の大幅な組織の増強が必要と思われる。</p> <p>また、「連携担当職員」は誰でもよいのではなく、人間的に高い素養が求められると思います。早期の人材の確保や育成が必要だと思います。</p>	提言	齋藤委員
6	地域福祉課	—	—	重層的支援体制整備事業について	<p>要支援者が見つければ「重層的支援体制」により効率的な支援を行うことができるでしょう。</p> <p>しかし、ヤングケアラーや老々介護、引きこもりや家庭内虐待等に関する要支援者は、住民登録や納税等の統計的な情報からは見つけるのが難しいのが現状です。要支援者を見つけての学校の担任教諭や包括のケアマネや本人の相談だけに頼っているのでは全く不十分です。</p> <p>子ども食堂、老人食堂、認知症カフェ、コミュニティーカフェ、地域イベント等の「居場所」における「人の交流」を活用した「要支援者を効率よく見つける新システム」を構築するべきだと思います。</p>	提言	齋藤委員

通番	担当課	要覧該当ページ	事業番号	対象事業名	内容	提言・質問の別	委員名
7	地域福祉課	—	—	重層的支援体制整備事業について	<p>相談支援については、「保健と福祉の総合相談窓口さーくる」を中心に相談機関と連携し役割分担し、各分野へ繋ぎ調整していくことは専門職等で担うことになると思います。</p> <p>「保健と福祉の総合相談窓口さーくる」の重要性を感じます。職員の躍進を期待します。</p>	提言	渡邊委員
8	地域福祉課	—	—	重層的支援体制整備事業について	<p>地域づくり支援については従来の活動の充実を図り、地域の中にたくさんの集える場、通いの場があれば地域が元気になるとは思います。が、「参加支援」は社会資源との関わりがポイントとなるので、各団体にPRし、関心を持っていただくことが大切かと思えます。</p>	提言	渡邊委員
9	地域福祉課	—	—	重層的支援体制整備事業について	<p>「困っていて、相談してくる人」より「困っているが、相談してこない人」の方が格段に多い。又、アンケート結果でも、各種の相談窓口の認知度は非常に低くなっています。</p> <p>「困っているが、相談してこない人」を「相談してくる人」に変えるため、強力な広報活動が必要だと思えます。</p>	提言	齋藤委員
10	地域福祉課	—	—	重層的支援体制整備事業について	<p>「困っているが、相談に来ない人」を見つけ出すシステムも構築すべきだと思えます。現在、学校や自治会、民生委員の日々の活動の中で、「困っているが、相談してこない人」を、もっと積極的に見つけ出すシステムをつくることはできないでしょうか。</p>	提言	齋藤委員